

2022年5月17日(火)～19日(木)

旧東海道ブラ歩き(18) 亀山宿—草津宿

今回は伊勢国亀山宿から近江国草津までの約58kmを2泊3日で歩いた。初日は亀山から坂下まで13km強、2日目は坂下から水口宿まで21km強、3日目は水口から草津まで24km強、歩数は初日30000歩、2日目43000歩、3日目42600歩、合計115600歩であった(自宅から駅迄の往復を含む)。

今回は箱根に次ぐ難所と言われる鈴鹿峠越えを控えていたので、3日間連続晴天の時を狙った。今年の5月は雨が多く、漸く今回実施したわけである。前回亀山まで歩いてから1ヶ月以上が経過してしまっただが、お陰で3日間とも好天に恵まれた。

今回のハイライトはなんと言っても鈴鹿越えであったが、前日にそのすぐ麓の坂下の宿に泊まったこともあり、あっけなく頂上に達してしまった。この他は昔の面影を色濃く残す関の街並み、湖南市周辺の民家の花々の美しさ、それに水口の古民家カフェだった。

今回は京都方面から東京を目指して歩いている人は何人か会ったが、京都を目指して歩いている人には一人も会わなかった(我々はゆっくり歩いているのでいれどどこかで追い抜かれているはず)。これは初めてである。おそらく江戸から京に向けて歩く人は多くても鈴鹿を超えて更に京に歩く人の数はかなり少ないのではないかと感じた。なお、石部の辺りですれ違った65才の男性はその日の朝5時に京の三条大橋を出発して大津、草津、石部と歩き、水口に宿泊すると言う。この間50kmを1日で歩くというのでこれには肝を潰すほど驚いた。もう一人は既に五十三次を済ませ、甲賀・湖南辺りの城址を巡っているという人だった。人との出会いは旅の大きな楽しみだ。

Day 1、 亀山宿—坂下宿 5月17(火)曇りのち薄日

いつもの6時28分品川発の「ひかり」で出発。名古屋で在来線に乗り換え亀山下車。10時に歩き始める。坂下の宿に着いたのが5時丁度。家からの総歩数は30000歩強。亀山からの歩行距離は13km強。

亀山駅から結構急な坂を登り若干迷ったがすぐに旧東海道を歩き始める。10時44分野村一里塚を通過。ここにある棕の木は樹齢四百年で大変立派だった。11時に布気皇館太神社(ふけこうたつだいじんじゃ)に至る。鳥居からの奥行きが深い立派な神社だ。旧東海道は鈴鹿川に沿っており前方に鈴鹿山脈を望み雄大な景色。

11時50分いよいよ関宿に入る。10分ほどで昔日の面影をかなり残したいかにも宿場町という感じの美しい街並みに入る。銀行や郵便局の建物も周囲にマッチしており電柱がないのも気持ちが良い(写真1)。1.8km続くこの街並みは「亀山市関宿重要伝統的建造物群保存地区」に指定されている。丁度昼時になったが飲食店は勿論そもそも店が一軒もない。勿論コンビニもないので今日はお昼抜きかと覚悟した途端にレストラン(Cercle)を見つけたので飛び込む。メニューも豊富でランチはオードブルから始まる本格的なものだ。サラダ、スープ、メイン(ズワイガニのクリームコロッケ)が美味しく、従業員の接客も良い。聞いてみるとシェフは名古屋のホテルで料理を担当した人で定年後ゆっくりと仕事をしたいとのことで、この地で民家を改修した建物を借り女性3人を雇って週に4日だけ営業しているとのこと。全員とすっかり仲良くなり、1時間ほどして店を出る時はシェフ自ら見送りに出て、「自分の夢はお二人のようにいずれは妻を連れて旅をしたい」と言っていた。

ここを出て歩き始めるとそれから先は食堂、カフェ・色々な店(アンティーク、傘屋など)があり、ここで関の街並み、資料館及び嘗ての旅籠玉屋をじっくり見学。昔の人の暮らしを十分偲べる展示だった。特に後者では広重の描いた東海道五十三次の十二枚のつづき絵の本物が展示されていて興味深かった(ここは写真撮影不可)。

14時40分くらいに関宿を出て坂下を目指す。ズーッと登り坂である。途中東京から427kmとの表示がある。宿の近くに東海道自然歩道の表示があり、見ただけで気が遠くなりそうな狭くて急な坂道である。幸い先達の吉田さん達の経験談を読んでいたのここを避け、普通の山道を歩く。丁度17時に坂下の「バーベキュー鈴鹿峠」に着く。和室だが小さな椅子を2脚貸してくれ、トイレも室内にある。この日の宿泊客は我々だけ。お風呂は室外だが温泉でゆったりした広さで、そこからは部屋からと同様森の緑とすぐ目の下には鈴鹿川の清流が見られる。生け簀にはニジマスがおり、夕食はそのニジマスづくしに加えて山菜の天ぷらでいずれも大変おいしかった。2食付きで一人8700円とreasonable。宿の人の接客も親切で大変良かった。出されたノートに家内が2頁にわたって感想を書く。これを見ると他の宿泊客のコメントもみな良いものばかりであった。

Day 2、 坂下宿ー水口宿 5月18日(水)晴

愈々鈴鹿越えだ。朝起きて温泉で一風呂浴び7時に朝食、8時20分に出発。途中水口のサイゼリアという店で夕食を済ませ水口のホテルに着いたのは20時とほぼ12時間歩き回っていたことになる。歩数は43000歩、歩行距離は約21km。

片山神社入り口に 8 時 30 分着、鈴鹿峠はやはり急坂だ(写真 2)。しかし標高 378m と箱根の半分以下である事に加えて、既に坂下まで 200m ほど登ってきていること (写真 3)、出発前に宿の主人からゆっくり歩いても 45 分で越えられると聞いていたので安心して登った。急坂の石畳と階段ではあったが 9 時には三重県亀山市と滋賀県甲賀市の分岐点を越え、同 7 分頂上の常夜灯にたどり着く。他の登山者同様あっけなかったというのが正直な感想である。とはいえ途中でマムシ注意との立札があり、実際階段の途中で蛇 (マムシではないと思うが) を 2 匹見たときは一寸ぎょっとした。但しこの場合相手が先に逃げてくれたので助かった。

鈴鹿峠は和歌にも数多く詠まれており、例えば西行は新古今集に

鈴鹿山浮世をよそに振り捨てて

いかになりゆくわが身なるらむ

と詠じている。

鈴鹿越えを祝してそこに居合わせたハイカーに記念撮影してもらおう(写真 4)。

10 時 35 分山中の一里塚を通過。この辺り第二名神高速と国道 1 号、旧東海道と入り組んでいる。11 時 10 分十二世紀後半に伊勢の北畠具教が山中城を攻めた蟹坂古戦場跡を通過。その 10 分後に田村神社にいたる。大変大きく立派な神社だ。ここまでの行程でかなりの部分をトラックがビュンビュン飛ばす国道 1 号線を歩く。ここから少し歩いたところに「あいの土山」という道の駅がありここで簡単な昼飯をとる。

昼食後歩き始めると 12 時 10 分に土山の案内板があり、その一部に広重の描いた「土山春の雨」があった (写真 5)。これは土山の松尾川の渡しを描いたものらしい。ここから土山宿の街並みが続く。良い町並みが保存されている。12 時半頃井筒屋跡に差し掛かる。ここは森鷗外の祖父終焉の場所。その斜め向かいに鷗外が墓参の際に宿泊した平野屋跡の石碑が建つ。暫時明治の文豪を偲ぶ。

井筒屋のすぐ隣に「うかい屋」があった。ここは 20 年前吉田さん達が立ち寄ったところ。12 時 40 分に我々も入りコーヒーで一休み。本もたくさん置いてあり良い雰囲気。オーナーが古い記録を調べてくれたが、吉田さん達の署名は見つけれなかった。土山は広く行けども行けども土山だった。

15 時 52 分、やっと甲賀市水口に入る。16 時 15 分に「古民家カフェ一里塚」の前に差し掛かり、若干急いでいたが疲れてもいたので 20 分だけと思って立ち寄る。店主の長 (おさ) 隆義さんのすすめでコーヒーゼリーを試したところこれが絶品。生まれて初めての味だ。更に話しているうちに、そこに居合わせた常連の藤村さんと二人で音楽を聴かせてく

れるという。藤村さんも全国を旅してその手書きの記録と写真を何冊かの分厚いノートに残しており、それを見るとこれまた非常に興味のある記録である。藤村さんが小さいオートハープという楽器（ギターのように弾く）、店長がオカリナで「大きな古時計」という皆が知っている曲を演奏してくれたが、思いがけないことで感動した。旅の出会いは素晴らしい（写真6）。16時41分ここを辞し一路水口に向かう。ただホテルの団体（グランドゴルフの全国大会とのことで年配者）客の予約で食堂が開くのは20時からとのことで、途中で開いているレストランに入り腹ごしらえをして20時丁度にホテル・ルートイン水口にチェックイン。設備も整っていて大浴場もあり満足だ。大分疲れもたまったので、荷物を減らすため家内は寝る前に翌日自宅に宅配分で送る荷物をまとめる。

Day 3、 水口宿－草津宿－帰京 5月19日（木）晴

6時前に起きて大浴場で一風呂浴びたまではよかったのだが6時半に食堂に行ったら団体の人の長蛇の列で遅くなり、出発は8時10分となった。この日の午後は家内が大分疲れしてきたので、最後の3kmほどはいつでもバスに乗れるよう旧道ではなく国道1号線に沿って草津駅に向かった。17時25分に草津駅に着き、遅れてきた姫路行きの電車で京都へ、ここで弁当を仕入れ、18時半過ぎの新幹線で21時半に帰宅。歩数は42600歩、歩いた距離は案内書に寄れば24km強だが国1の方が距離が短いのでこれより短いものと思う。

水口のホテルが国道1号線に面しているので出発後すぐに旧東海道に道を取り水口の田園風景の中を歩く。この近くで家から出てきた女性二人に話しかけられたが、それは99才5ヶ月のお母さんとその74才の娘さんだった。お母さんはもうすぐ100才になるとは思えないほどしっかりしていて、我々も見習わねばと元気を貰った。そのあと9時5分泉一里塚跡と横田の渡しを通過。野洲川を越えた辺りからはJR草津線に沿っている。鈴鹿越えでは関宿から草津宿までは鉄道がないのでなんとしてもその日のうちに徒歩で草津に辿り着かねばとの緊張した思いで居たが、この点に気づくと少し気持ちが楽になる。ここまでは甲賀市だがこの少し先から湖南市に入る。10時17分三雲城址で一休み。ここは司馬遼太郎の本では猿飛佐助が修行したところとあるそうだ。そもそもこの辺は甲賀忍者が出没したところ。10時42分夏見一里塚跡に達する。ここは江戸から115里（460km）とある。随分京都に近づいた。湖南市近辺の民家はいずれも庭に花壇を持ち美しい花々で旅人の目を楽しませてくれる（写真7）。花を愛でる心が東京よりずっと強いように感じた。

この辺りから家内の腰と膝の痛みが増し歩行速度が落ちてくる。丁度12時に甚徳という料理屋があり、ここに入って寿司を中心とした食事をとり休憩も入れて1時間ほど過ごす。ここで家内の元気が回復したかに見えたが、暫く歩いて石部宿に入る辺りから再び遅

れ出し、自分が先行して暫く歩いた後家内が来るのを待つというのを繰り返す状態となる。田楽茶屋が営業していたが、これ以上道草をすると草津到着がかなり遅くなるとの考慮から立ち寄りなかった。JR 草津線の石部駅を少し過ぎた辺りから道は下道と上道に分かれるが、短い方の下道に行く。この辺りから家内がしきりに水を求める。持参の冷水と温かい紅茶が少なくなってくるのに自動販売機がない。必死で歩いているうちにこれを見つけたので直ちに冷たい麦茶を買って水分補給をする。更に少し進むともう 1 台見つけ、ここでもボトルを購入。だんだん名所見学どころではなくなってきた。こうした中で 15 時に庭で有名な和中散本舗の前を通るが、庭は予約制で見られない（写真 8）。

この辺で家内に脱水症らしき症状が出始めたので愈々第 2、第 3 の策を練る。一つはあと 1.5km ほどで旧道が草津線の手原駅の近くを通るのでそこで今回は打ち切って帰京し、次回に東京からここまで来て歩行を再開する案、もう一つはここから電車で草津に行って一泊し、翌日ここまで戻って草津まで歩いて帰京する案である。前者の場合次回にここから大津まで歩くのが大分長丁場になるので、選択は後者に傾きかけたが、家内がもう少し頑張ってみるといっているので、再びゆっくりと歩き出す。手原駅のそばを通過して 500m 程歩いた 16 時過ぎに足利義尚の鈎（まがり）の陣の石碑のところ旧道と国道 1 号が近接しており、そこにセブンイレブンが見えたのでそこに駆け込んで塩味のする補給水というのを購入、一休みして今度は最悪バスで草津に行くことを想定して旧道ではなく国道 1 号線を歩き始める。少し行くと草津駅まであと 3km と表示がある。家内もゆっくりなら歩けるので何とかこらえて 17 時半頃草津駅に到着、すぐに来た姫路行きに乗って予定通り京都迄来た。ここで家内は大分元気になり、おいしい駅弁を買って 18 時半の新幹線に乗り 21 時半無事帰宅した。という次第で草津までとの所期の目的は達したものの、草津近くの旧道は歩いていないので次回は草津で先ずここら辺りから歩行を再開する所存である。これで京都まであと 1 回の旅を残すのみとなった。

経費は交通費 34480 円、宿泊費 30200 円、食費 19759、その他約 7030 円、合計 91469 円であった。



写真1 電柱がない関宿の街並み



写真2 鈴鹿峠 頂上に向けて

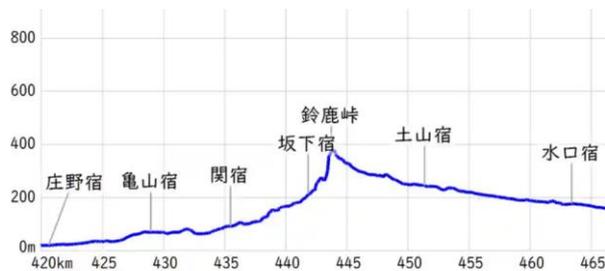


写真3 鈴鹿峠高低図 (写真3の出処:<https://gcy.jp/kkd/tokaido.html?p=0>)



写真4 鈴鹿峠頂上



写真5 広重の土山春の雨



写真6 古民家カフェ里塚 長さんと藤村さん



写真7 石部宿付近の民家
花が美しい



写真8 栗東市 史跡和中散本舗前
写真は幸子